

中学生に未来へのヒント「働く・生き方」について伝える



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）浜北募集案内所は1月4日（木）、浜松市立積志中学校で行われた未来授業に参加し、午前中は2年生、午後は3年生に対して、自衛隊の仕事や自衛官としての生き方について紹介した。

午前中は広報官の鈴木直玄2等陸曹が「働く」をテーマに、自衛隊の仕事内容や多様な職種を伝えた。自分の「好き」や「得意」を伸ばせる仕事があることに、生徒たちは目を輝かせていた。

午後は星所長が「生き方」をテーマに授業を行い、まず「生きる」とは、どんなことだと思いますか」と質問し、生徒たちにそれぞれ考えを聞いた。

「難しい」「食べること」「人の役に立つこと」といろいろな意見があり、星所長はその一つひとつに頷き、「全てが正解だと思えます」と伝え、自分が学校を卒業するときの進路、自衛隊に入隊してからの経験、自分の可能性を広げるための挑戦について紹介した。そして、「生きるということとは『分岐点』の連続だと、私は思います」と締めくくった。

静岡地本は、広報官が歩んできた自衛官としての生き方だけでなく、一人としての人生の歩みを子供たちに伝え、将来の夢や希望を身近に感じられるきっかけをつくっていく。

自衛官の働く姿を学ぶ 北浜中学校2年生の職場体験



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は1月18日（木）と19日（金）、浜松市立北浜中学校の2年生5人の職場体験を行った。

1日目は、航空自衛隊浜松基地（浜松市）を訪れた。まず隣接する広報館「エアパーク」を見学して浜松基地の歴史や装備品等への知識を深めた。

その後、基地内に移動し、飛行訓練用の航空機であるT-4中等練習機の操縦席に座ったり、パイロットを目指して訓練を受けている隊員から操縦の楽しさについて話を聞いた。また、航空救難隊では、人命救助に携わる使命感とやりがい、情熱をもって業務を行う搭乗員の話に、目を輝かせ真剣に聞き入っていた。

2日目は、静岡地方協力本部の本部庁舎（静岡市）において、自衛隊の任務、活動内容、魅力・やりがいについて学んだ。

本部内の各課を回って隊員にインタビューを行い、最後に生徒から自衛官へ「腕相撲」という挑戦状が飛び出した。感染対策をした上で、国を守る自衛官の大きな手に100%の本気でぶつかり、晴れやかな笑顔を見せていた。

職場体験を終えた生徒たちからは「想像していたより航空機が大きかった」「訓練・トレーニングという厳しいイメージがあったけれど、自衛隊の仕事はいろいろあり、厳しいだけではないことがわかった」「国を守るといふ仕事に真剣に取り組んでいることがよくわかった。自分も将来の夢や目標に向けて頑張りたい」などの声が聞かれた。

静岡地本は、自衛官の働く姿を通して、何のために働くのかという思いも伝えられるよう広報活動に努めていく。